

ネギ (ユリ科)

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
根ネギ	タネまき			植えつけ						収穫		
葉ネギ		購入苗										

品種

〔根ネギ〕黒昇、金鳥、深谷、岩槻、越谷黒一本、石倉。積雪地方では、下仁田、加賀

〔葉ネギ〕九条太、九条細、奴

栽培ポイント

本来は冷涼な気候を好みますが、暑さ、寒さに強いので、1年じゅう作られています。

根は酸素をとる必要とするので、耕土の深い、通気性のある土が最適です。乾燥にはわりあい強いのですが、過湿には注意します。また、酸性の土だと生育が悪いので、あらかじめ、1㎡あたり2握りの、苦土石灰をまいて中和しておきます。

タネは、日当たりがよく、排水のよい場所を選んでまきます。タネまきの1週間前に、元肥えを土全体にすき込んで整地し、1m幅の床を作ります。元肥えは、1㎡あたり堆肥をバケツ1杯、化成肥料2握りを用います。タネまきは、春と秋に行いますが、秋まきは育苗期間が長いので、家庭菜園では春まきのほうが苗を育てやすいでしょう。また、5月ごろ出回る苗を求めれば、手軽に栽培できて、9月ごろから収穫できます。

●**根ネギ**● 根ネギは、土寄せによって葉鞘部を軟白化するので、土質が大きく影響します。酸性土に弱いので、1㎡あたり2握りぐらいの苦土石灰を施し、土は深く耕して通気性をよくしてください。植え溝がくずれないようにするためには、畑の整地を早くすませて土を落ち着かせておくことが必要です。耕したばかりの畑だと、土がくずれて深い植え溝は作れません。元肥えは特に必要なく、追肥をしながら栽培したほうが無難です。ただし、やせた畑は元肥えとして、緩効性肥料を植え溝に軽く施して土をかけ、根に直接ふれないようにして植えます。

植えつけは、育苗した苗は6月中旬～7月下旬、購入苗は5月ごろです。植えつけが遅れるにつれて収量が減るので、8月上旬までには必ず終わらせます。畝は原則として南北にとり、苗は溝の西側に1本ずつ垂直に立てて植えます。

生育中に肥料が不足すると収量が上がらないので、3～4回に分けて1ヵ月ごとに追肥をします。追肥のつど土寄せも平行して行います。ネギの土寄せは重要な作業の一つで、一度にたくさんの土寄せをすると、根を傷め生育が止まって、太らなくなります。1回目は苗が根づいたあと、わらがかくれる程度に、2回目は7～8cm、3回目で植え溝を埋める程度です。最後の土寄せで軟白部分を完成させますが、土寄せ後、軟白するまでの日数は、収穫時期によって異なり、9月上旬の土寄せで20日、11月以降では40日かかります。

●**葉ネギ**● 葉ネギは、タネからでも栽培が手軽にできます。根ネギの育成と同様に、準備した畑に3月中旬ごろタネをまき、間引いて苗を作り、浅い植え溝を作って、株間15cmにして3～5本ずつ植えます。土寄せは、植えつけ1ヵ月後に軽く10cmぐらい土を寄せるだけです。

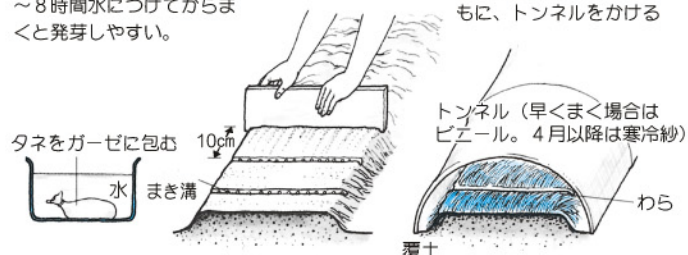
●**収穫**● 5月植えの根ネギは9月、7月植えは11月から翌年の3月まで収穫できます。葉ネギは8月より収穫できます。必要な量ずつ、根ネギは畝の端からスコップで土をくずして掘りとりまします。葉ネギは掘りとってもかまいませんが、地際から切りとるようにすれば、切り口から再び新芽が伸びてきます。切りとったあと、化成肥料を1㎡あたり1握りくらいまいておくといでしょう。

栄養

ネギは酸性食品で、緑葉部にはカロチン、ビタミンCが多く含まれています。その点、軟白部を食べる根ネギは栄養価が劣ります。

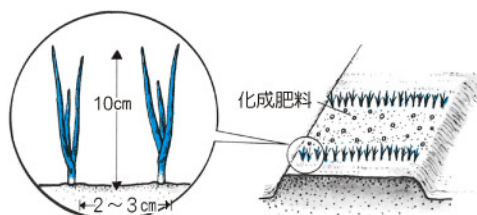
1 タネまき

床を平らにならし、10cm間隔のまき溝をつけ、タネをまきにする。タネは6～8時間水につけてからまくと発芽しやすい。



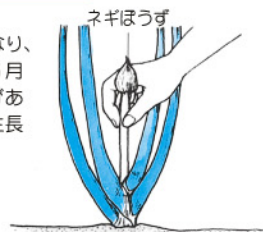
2 育苗中の主な管理

6～7日で発芽するので、敷きわらをとり除く。込み合っているところを間引き、草丈10cmのころ、2回目の間引きをする。草丈10～15cmのころ、条間に化成肥料を軽く施し、除草をかねて中耕する。

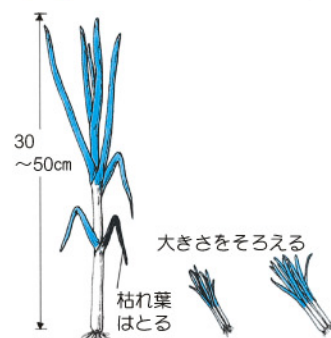


3 ネギぼうずのつみとり

秋まきの苗は、日が長くなり、温度が高くなってくると4～5月に、ネギぼうずがつくことがある。ネギぼうずは、つくと生長が止まるので、つみとる。



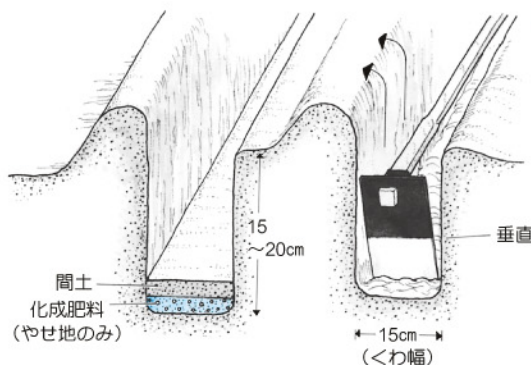
4 植えつけ苗の準備



草丈が30～50cmに伸び、太さが鉛筆以上（直径1cm）が理想的な大きさ。苗を購入する場合は、大きさのそろったものを選び、植えつけまで日陰におく。自分で育てた苗は、早朝に苗をとって、日陰において大苗と中苗に分け、苗の大きさをそろえておく。

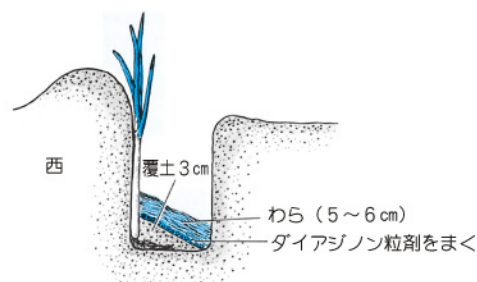
5 畝作り（根深ネギ）

苗を植える畝は、植えつけの当日に作る。あらかじめ石灰をまいて整地しておいた畑に、壁面が垂直になるようにして、くわの幅の深い溝を掘り、溝に沿って、片側に土を掘り上げてゆく。



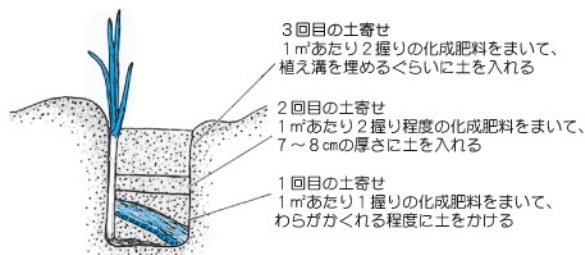
6 苗の植えつけ

植え溝の西側の壁に苗を4～6cm間隔にまっすぐに立てて並べ、細根が隠れる程度に少量の土をかけ、そのうえに、わらを入れる。わらは乾燥防止と、土入れ後の通気性をはかるうえでたいせつ。



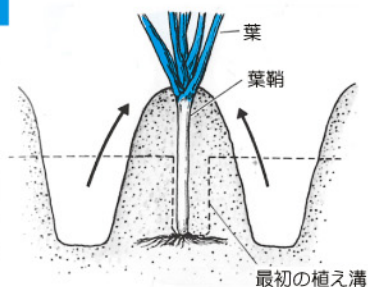
7 追肥と土寄せ

苗が根づいたら、1ヵ月おきに畝の肩に化成肥料をまき、その土を少しずつ溝に入れてゆく。早くから一度に土をかけると太らなくなるので注意。



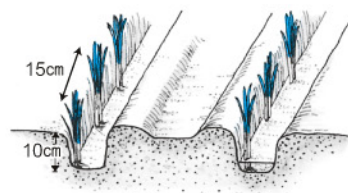
8 最後の土寄せ

軟白のためのたいせつな作業。畝間の土を掘り上げて葉が分かれている部分の上まで盛り上げ、土をよくおさえる。収穫予定の日から逆算して行うが、11月下旬までには終わらせる。



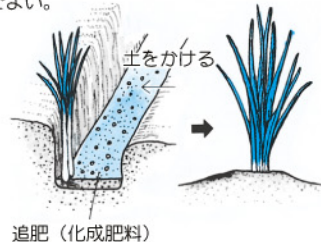
9 葉ネギの植えつけ

くわ幅で浅い植え溝を掘り、15cm間隔に3～5本ずつまとめて植える。



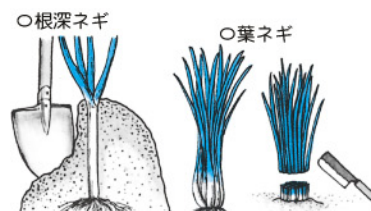
10 葉ネギの土寄せ・追肥

植えつけ1ヵ月後に、化成肥料を株元にばらまき、中耕と除草をかねて土寄せをする。土寄せは苗が倒れないようにするために、10cm程度でよい。



11 収穫

根深ネギは、いちばん端の溝の反対側をスコップで掘り、葉を傷めないようにして軽く引いて収穫。葉ネギは掘りとか、切りとって収穫する。



主な病害虫

- ◆病気 ベと病、さび病、黒斑病
- ◆害虫 アブラムシ、ネギコガ、ネダニ、ネギハモグリバエ、アザミウマ